2010 府内☆学生 ECOフェスタ

地球を感じよう！ Feel the Earth!

スタッフの奮闘記

「府内☆学生ECOフェスタ」の運営の中心になったのは、もちろん学生たちだ。2年生だけでなく、入学間もない1年生たちも率先して参加した。

「十三夜」で司会を担当

府内フォーク村「十三夜」で、チラシ配り・司会・会場設営といった仕事を行った。なかでも、司会という仕事は今まで経験したことがほとんどなく、うまく話せるか少し不安だった。本番は緊張したけど、できるだけお客さんの方を見て笑顔で話すよう心掛けた。１日を振り返って、私にはまだまだコミュニケーション能力が足りないと感じた。先輩方のてきぱきとした働きを見て、かっこいいと思ったし、私自身も何かの活動で中心となって働ける存在になりたいと思った。今回感じたことや考えたこと、経験したことをこれから生かしていきたい。

（１年・税田真知子）

キャンドルナイトコンサートを司会

ネパールからの留学生MANIくんと、コンサートの司会を担当した。演奏を楽しみ、頭の中で演奏後のことを考えた。「和太鼓サークルに、大きな声で拍手をお願いします」。その瞬間、観客は爆笑した。近くにいた狩谷先生が「大きな声で拍手はできないな」と苦笑していた。私も自分の言い間違いなのに、つられて笑った。「府内☆学生ECOフェスタ」は、忘れられないものになるだろう。学外の本格的な活動は初めてだった。学生が街を盛り上げたという達成感があり、うれしかった。この大学生活で多くの活動をしてみたい。

（１年・櫻井奈菜子）

サービスラーニング「白くまラジオ」

白くまラジオのスタッフとして参加し、「あしなが学生募金」のパーソナリティーをしました。あしなが学生募金のゲストは芸短生ではなかったので、当日まで１度も打ち合わせができず、本番１時間前にざっと打ち合わせをしただけで、本番に挑みました。ラジオのパーソナリティーをするのが初めてで、とても緊張しました。打ち合わせの時より自然に出来たので、個人的には満足でした。途中で間違えたりしたことが反省点です。終わった時にはすごく達成感があって、充実していました。

（１年・多田彩乃）

大分市「環境展」で

苗木を配った時、もらってくれない人もたくさんおり、残念に思った。苗木をもらってくれた人が庭に植えることで、環境に優しい活動を多くの人が行ってくれることを考えると、とてもうれしい気持ちになった。これをきっかけに、今まで環境に関心をもっていなかった人も、興味をもってほしいと感じた。

（１年・山村栞織）

「日本一小さな花火大会」

会場では参加者が数ヵ所におかれたキャンドルに集まり、線香花火を楽しんだ。ひとつのキャンドルを近くにいた人同士でうまく一緒に使っていた。地球も同じことである。これから先、どうすれば共に生きていけるのか。そのことを一度考えてみなければならない。

（１年・三浦晃子）

映画「earth」を見て

英国BBC制作の映画「earth」は、学生たちに強い感動を与えた。

（6月14日、プレイベントとして上映）

❏ 想像以上のことが

（1年・大山純子）

私の地元である奄美大島では、環境破壊や地球温暖化の影響により多くの自然や動物が絶滅しつつある。実際に、地球環境に詳しい人たちに話を伺ったり、生態調査や自然観察に行ったりして環境破壊で何が起きつつあるのかは知っているつもりだった。しかし、今回「earth」を見て、自分が知っていたことはごく一部であり、考えていた以上のことがこの地球上で起きていたことが分かった。

❏ 生物多様性

（1年・石田穂波）

私が映画を見てまず浮かんだ言葉は「生物多様性」だ。この言葉は、地球環境問題に注目が集まっている反面、意外と認識が少ないということで話題になった。地球上には遺伝子、種、生態系のレベルで多くの生物種が存在するという意味だ。生物多様性の記事を高校生のころ読んだだが、意味が分かるようで分からなかった。だが今回の映画を通して、この言葉の持つ意味が具体的に示されたと感じている。つまり、私の中での認識が少し理解へと深まったということだ。

❏ まだ間に合う

（1年・西田加奈子）

映画の最後に「今ならまだ間に合う」という言葉があった。この言葉に私は、とても希望を与えられた。私の孫、ひ孫、その先の代にまで美しい地球を受け渡したい。

❏ 悲惨な北極熊

（1年・森奈帆）

印象に残っている場面は、北極熊が出てくるところだ。生活の基盤となる氷がなくなってきていて、獲物がとれず餓死寸前だという。実際に餌がなくさまよう熊を見て、その事態を目の当たりにした。熊はセイウチに襲い掛かり、結局、獲物を捕えることができなかった。

❏ 2つのこと

（1年・佐藤祐美子）

映画を見て、2つのことを考えさせられました。1つめは「動物の中でも人間は特別か」ということです。2つめは「人間は他の動物や自然と共生することができるのか」ということです。人間の環境破壊によって絶滅種が増えていくようでは、共生しているとは言えません。